

# 土木学会 見える化データ 2013（詳細版）

## 2. 学術講演

- 土木学会は、2014年に創立100周年を迎える公益社団法人です。
- 学会個人会員数は約30,000人、その多くは企業に所属する土木技術者です。
- 土木学会には、30以上の研究委員会が設置され、多くの学会員が参加し活発に活動しています。
- ここでは、土木学会の2012年度の活動のうち、社会支援、社会とのコミュニケーション、社会への直接的貢献を目的とした活動などを抜粋して紹介します。
- 多くの皆様にご覧いただき、開かれた学会として、より良い方向へ発展し続けていきたいと考えています。

2014年2月9日

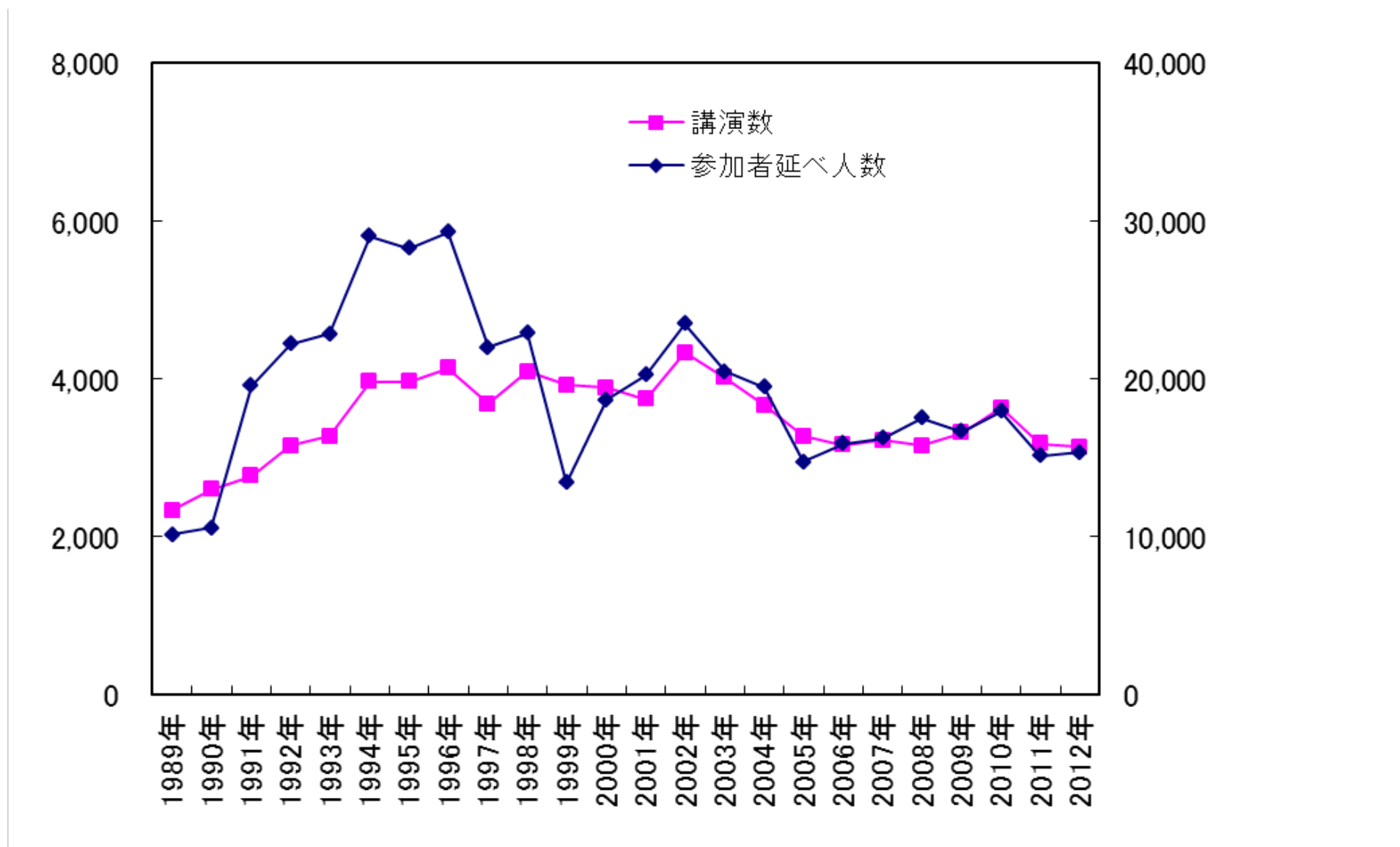
土木学会 企画委員会

## 2-1-1 全国大会講演数と参加者数

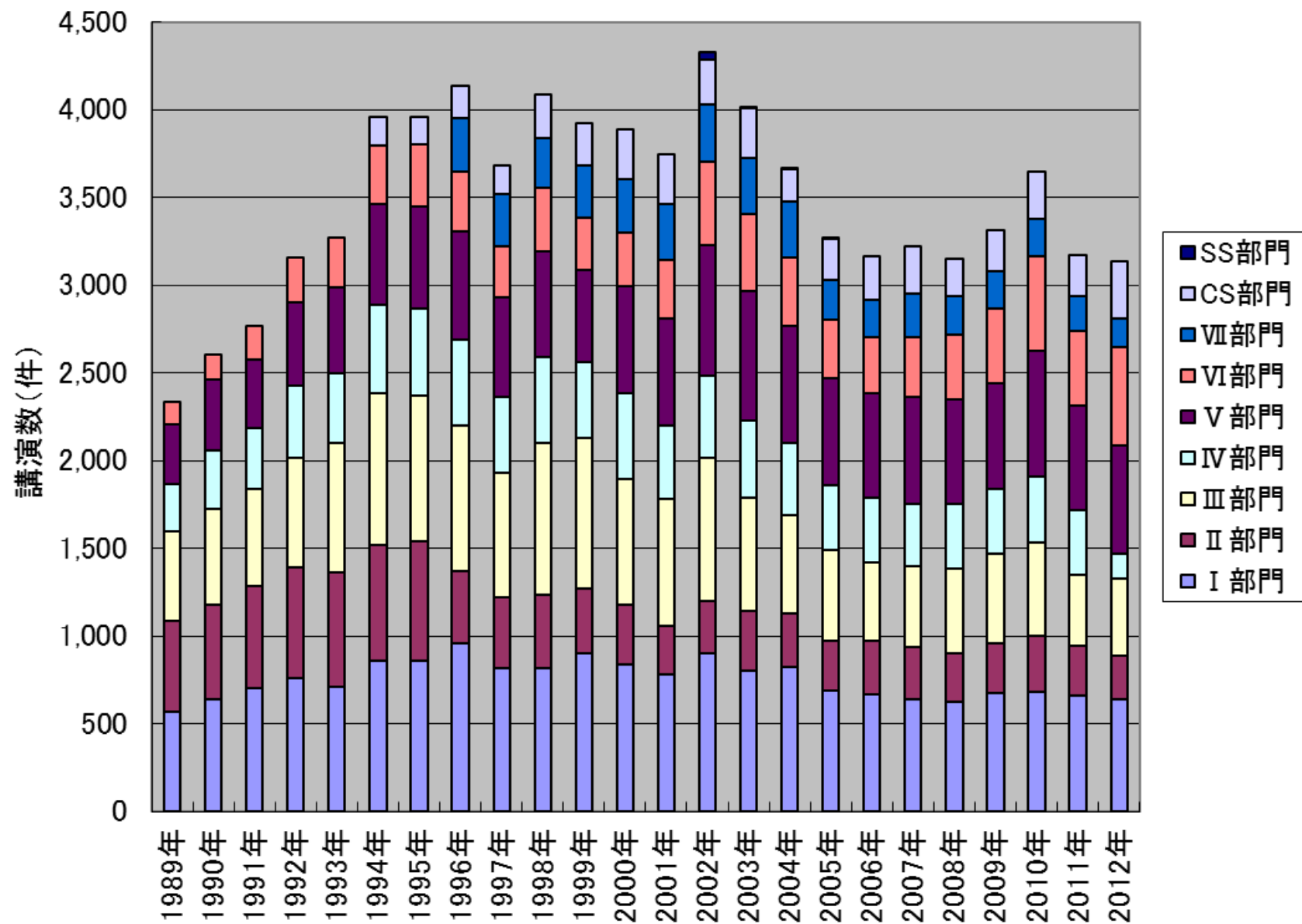
回	年	開催校	担当支部	会長	代	講演数	参加者延べ人数
第44回	1989年	名古屋工業大学	中部	堀川清司	77代	2,332	10,120
第45回	1990年	新潟大学	関東	浅井新一郎	78代	2,600	10,557
第46回	1991年	関西大学	関西	岩佐義朗	79代	2,768	19,544
第47回	1992年	東北大学	東北	藤井敏夫	80代	3,154	22,185
第48回	1993年	九州産業大学	西部	竹内良夫	81代	3,268	22,834
第49回	1994年	北海道大学	北海道	中村英夫	82代	3,961	29,040
第50回	1995年	愛媛大学	四国	小坂忠	83代	3,960	28,255
第51回	1996年	名城大学	中部	松尾稔	84代	4,137	29,308
第52回	1997年	中央大学	関東	宮崎明	85代	3,682	22,000
第53回	1998年	神戸大学	関西	岡田宏	86代	4,087	22,903
第54回	1999年	広島大学	中国	岡村甫	87代	3,921	13,400
第55回	2000年	東北大学	東北	鈴木道雄	88代	3,890	18,680
第56回	2001年	熊本大学	西部	丹保憲仁	89代	3,743	20,231
第57回	2002年	北海道大学	北海道	岸清	90代	4,326	23,501
第58回	2003年	徳島大学	四国	御巫清泰	91代	4,011	20,461
第59回	2004年	愛知工業大学	中部	森地茂	92代	3,667	19,487
第60回	2005年	早稲田大学	関東	三谷浩	93代	3,272	14,720
第61回	2006年	立命館大学	関西	濱田政則	94代	3,164	15,868
第62回	2007年	広島大学	中国	石井弓夫	95代	3,217	16,233
第63回	2008年	東北大学	東北	栢原英郎	96代	3,151	17,524
第64回	2009年	福岡大学	西部	近藤徹	97代	3,311	16,634
第65回	2010年	北海道大学	北海道	阪田憲次	98代	3,627	17,939
第66回	2011年	愛媛大学	四国	山本卓朗	99代	3,173	15,098
第67回	2012年	名古屋大学	中部	小野武彦	100代	3,138	15,335

注)1999年広島大会は台風のため投稿数で集計

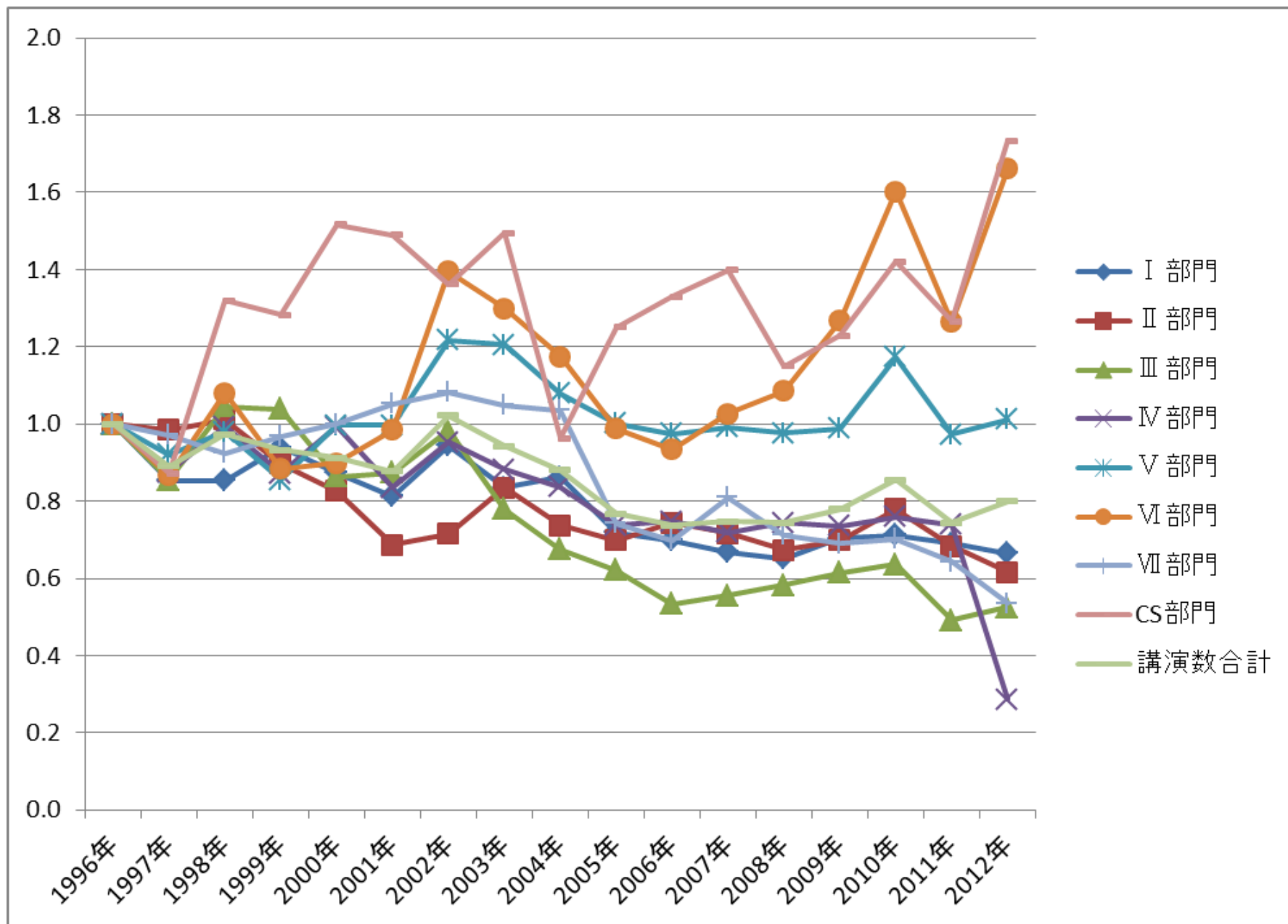
## 2-1-2 全国大会講演数と参加者数



### 2-1-3 全国大会部門別講演数



## 2-1-4 部門別講演数比率の推移



## 2-2-1 論文集掲載数

部門	項目	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
部門A	掲載数	92	121	99	110	116	106	92	108	73	79	65	82	79	66	66	65
	比率	1.000	1.315	1.076	1.196	1.261	1.152	1.000	1.174	0.793	0.859	0.707	0.891	0.859	0.717	0.717	0.707
部門B	掲載数	53	45	49	49	55	45	54	39	45	37	32	24	29	39	23	20
	比率	1.000	0.849	0.925	0.925	1.038	0.849	1.019	0.736	0.849	0.698	0.604	0.453	0.547	0.736	0.434	0.377
部門C	掲載数	95	89	124	100	95	115	76	90	54	73	91	69	86	69	45	57
	比率	1.000	0.937	1.305	1.053	1.000	1.211	0.800	0.947	0.568	0.768	0.958	0.726	0.905	0.726	0.474	0.600
部門D	掲載数	47	42	40	36	45	49	53	49	49	52	49	50	46	36	44	47
	比率	1.000	0.894	0.851	0.766	0.957	1.043	1.128	1.043	1.043	1.106	1.043	1.064	0.979	0.766	0.936	1.000
部門E	掲載数	79	71	101	73	67	65	90	74	63	68	54	55	46	39	58	39
	比率	1.000	0.899	1.278	0.924	0.848	0.823	1.139	0.937	0.797	0.861	0.684	0.696	0.582	0.494	0.734	0.494
部門F	掲載数	56	56	57	65	57	70	65	56	50	54	43	37	45	50	40	37
	比率	1.000	1.000	1.018	1.161	1.018	1.250	1.161	1.000	0.893	0.964	0.768	0.661	0.804	0.893	0.714	0.661
部門G	掲載数	39	36	42	35	43	42	58	36	37	43	46	32	26	21	23	22
	比率	1.000	0.923	1.077	0.897	1.103	1.077	1.487	0.923	0.949	1.103	1.179	0.821	0.667	0.538	0.590	0.564
部門H	掲載数															6	3
	比率															1.000	0.500

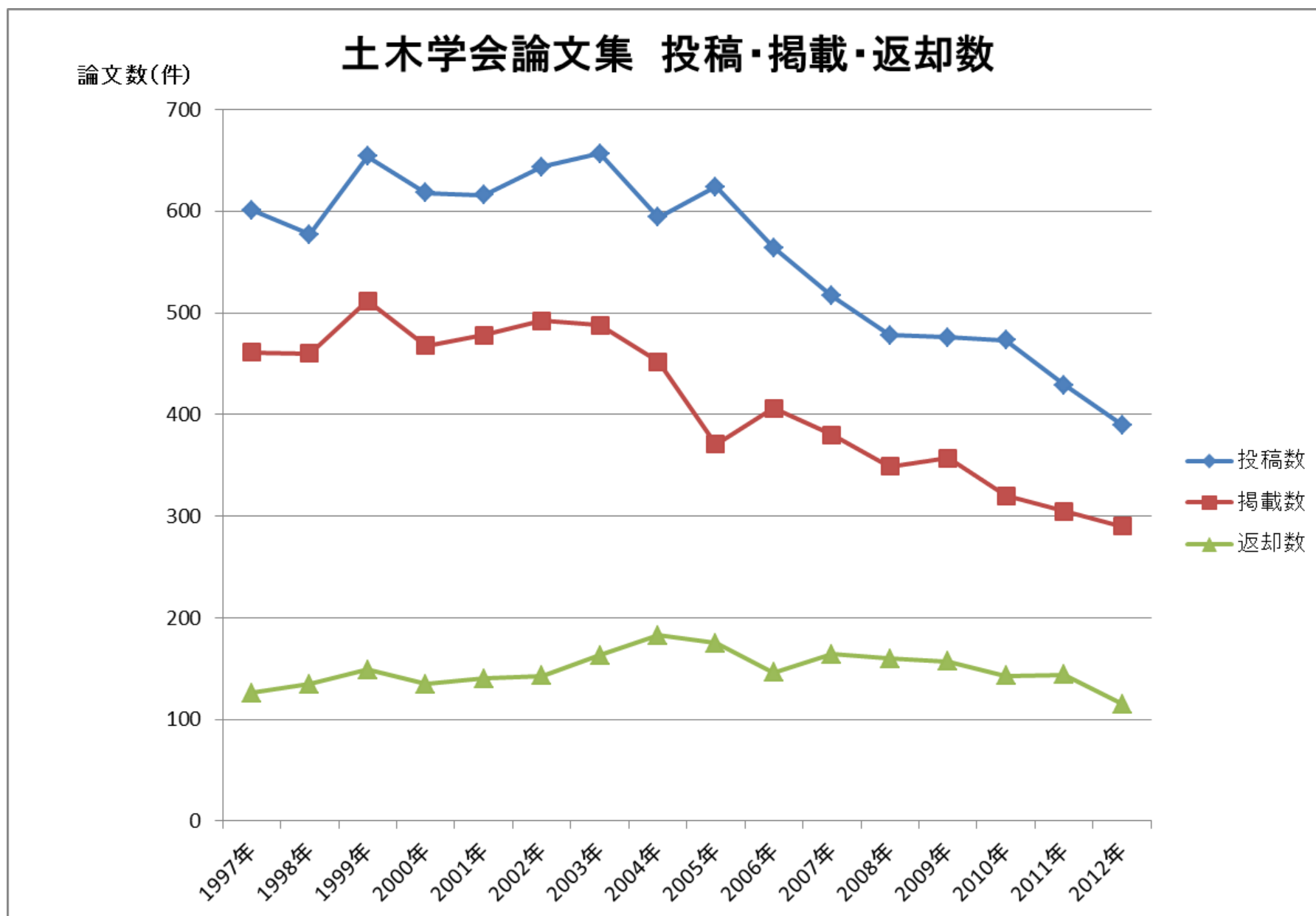
※ 掲載数は、当該年に論文集へ掲載された数

※ 部門Aについては、SE/EEも含む。

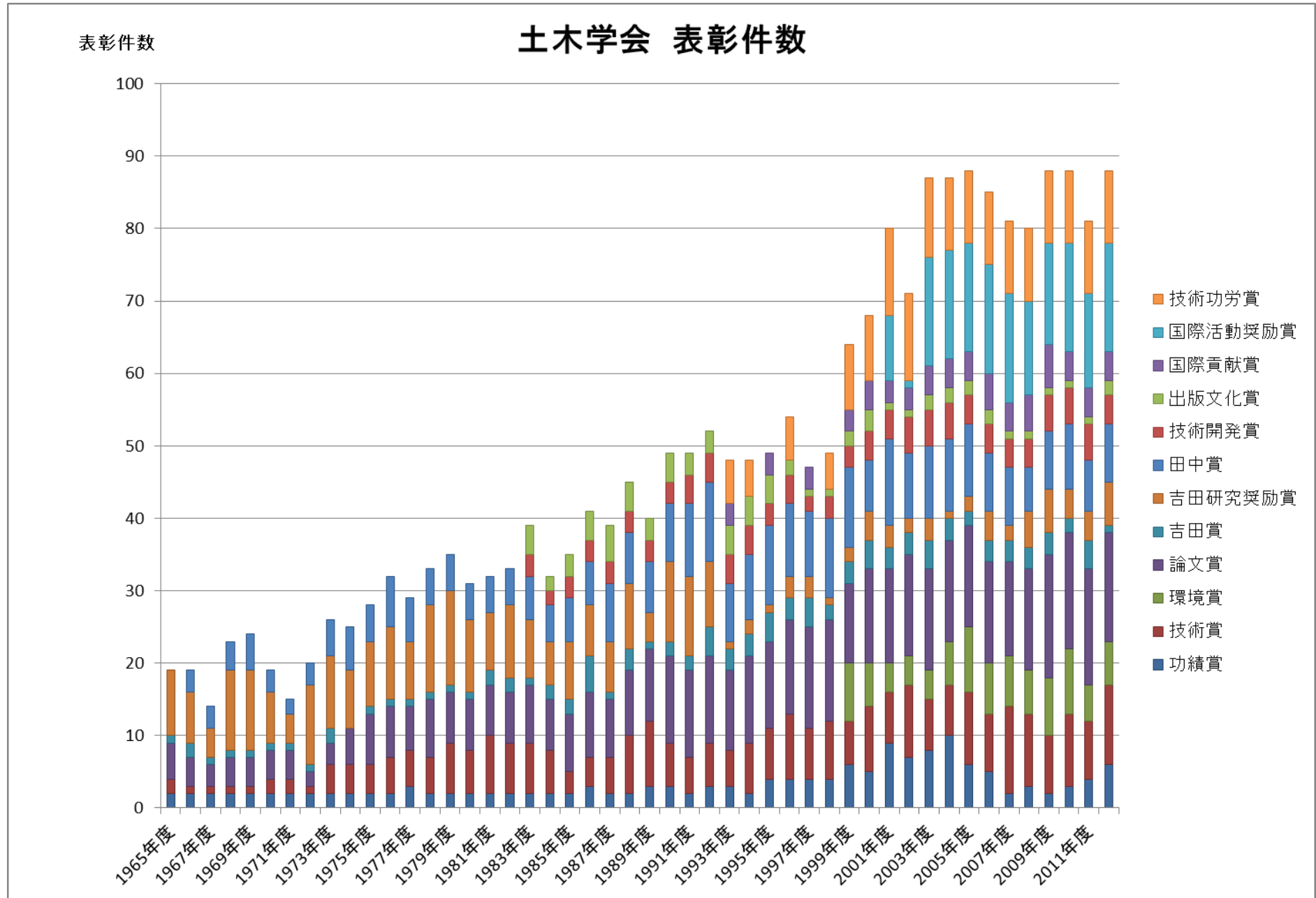
※ 2010年については、これまでのデータと比較するために、旧部門（2010/1/1～2010/7/19）と新分冊（2010/7/20～2010/12/31）のデータを合算して算出

※ 部門Hについては2011年を1.0とした

## 2-2-2 論文集投稿数、掲載数、返却数の推移



## 2-3 表彰





## 2-4-1 調査研究委員会活動

調査研究部門 委員会活動への参加 関与者数

年度	①小委員会以上の 会議に出席した 延べ人数 (人)	②委員会が主催、 共催した行事に 参加した延べ人数 (人)	③委員会が関与して 出版した書籍の 購読者数あるいは 購買数 (人)	④災害調査団に 派遣した 委員の延べ人数、 調査団が開催した 報告会等の参加者数 (人)	年度毎の 合計 (人)
2004	11,902	19,042	45,459	0	76,403
2005	12,700	18,953	47,524	0	79,177
2006	13,142	17,088	37,043	0	67,273
2007	11,514	22,722	52,004	1,853	88,093
2008	11,958	20,463	74,293	877	107,591
2009	11,768	17,208	38,828	675	68,479
2010	10,712	18,117	39,285	356	68,470
2011	11,643	16,230	25,457	82	53,412
2012	11,083	27,999	36,679	36	75,797
累計	106,422	177,822	396,572	3,879	684,695

注 1) 上記①～④の参加者数および関与者数は、他の研究委員会等と共催あるいは連携している場合、関与した委員会数で除した値とした

注 2) 上記④の報告会等の参加者数は、複数の委員会が関与する場合、参加者数を講師の人数比で按分した値としたが、土木学会以外の組織の数は考慮しないものとした

## 2-4-2 調査研究委員会活動参加数

